

## 今年のテーマは、「つながり」と「覚醒」

河口 真理子（SIF-Japan 代表理事）

vol.49

新年明けましておめでとうございます。年末からイスラエルのガザ侵攻など、落ち着かない年明けになりましたが、change を合言葉にした丑年年男のオバマ新大統領に世界の期待が集まっています。占星学的に見ても今年は変容の年だそうです。昨年からはCSRの分野では生物多様性が話題になり始めました。

これは、「全ての命は精巧な網の目のようにつながりながら生きている。人間はその一つの網にすぎない」ことを表したものと筆者は考えています。そして、「百年に1度」の金融危機は、グローバル経済がまさに「つながっている」ことを鮮やかな形で証明しました。それがきっかけとなり、このまま(Business as usual)ではダメだ、根本的に変えなければ、という意識の覚醒が世界のあちこちで見られるようになった気がします。

IPCC の報告書は、想像力がなければその大変さが理解できませんが、経済の深刻さは誰にでも明らかです。より真剣度が違うのかもしれませんが。

確かに当面の生活は厳しく、派遣切りの急増や、靴下や野菜の福袋が売れるなど景気に対する先行き不安は蔓延しています。昨年の日経平均の下落率は1年間で4割超えているのですから、未曾有の不況はある意味当然なのでしょう。でもそこに、一種の明るさを感じているのは私だけでしょうか？(明日からの仕事が無いという方にはおしかりを受けるかもしれませんが)

それは昨年の金融危機を、今までの大量収奪→大量消費→大量廃棄→環境汚染、という破滅にむかって突っ走る経済システムにかけた急ブレーキ、とも評価できるからではないでしょうか？現に、石油の値段が年末にかけて急落しても、クルマ生活に戻る人は少ない。単なる景気循環の中の不況期ではなく、大きな構造変化、パラダイムシフトが起こり始めたと認識する人たちが増えています。

そもそも環境を収奪しないと経済が成長しない＝幸せになれない、という私たちの今の社会経済システム自体に対して、成長したが豊かさを感じない人たちが、疑問を感じるようになっていないのでしょうか。

環境を収奪することなく、地球環境と調和しながらも人類の幸せを追求できる、そういうよりレベルの高い文明にパラダイムシフトしなければならない。なぜならば私たちは、個人として独立した人権・思想・好みを持ちながらも、コミュニティの一員としてつながっており、また地球の命ともつながっている、からです。

今、先進国に住む私たちに物質的な豊かさをもたらした西洋近代文明は、自然や地域社会と人との「つながり」を、人間を縛る呪縛としてそれを断ち切ることで個の確立を図り、また客観的なモノを分解・分断して真実を追究するという還元論的手法に基づく科学の発達によってもたらされてきました。しかしその



結果、「個人の欲望の最大化が社会の幸せにつながる」という市場至上主義を蔓延させ、気がついたら地球上の命のネットワークを破壊し、資源を収奪しながら自らの幸せのみならず生存基盤も壊しつつあるのです。

本当の幸せは、個々が欲望を最大化させることでなく、社会的なつながり、命のつながりに「気がつき」そのつながり全体を豊かにすることにもたらされるのではないのでしょうか。そして金融とは経済システムを「つなげる」有力なツールでありインフラです。金融は社会発展ための人とモノと社会を「つなげる」ツール・インフラと再認識し、新たな社会にむけてどのような役割を果たすべきか、それが今の金融にまさに求められていると思います。

